

# ～胃薬について～

## ☆胃を不快にする原因

胃には、**攻撃因子**（胃酸、ペプシンなど）と**防御因子**（粘液、プロスタグランジンなど）があり、両者のバランスが保たれて正常な状態を維持しています。

攻撃因子と防御因子のバランスを崩す要因として以下のようなものがあります。

- ・加齢 ・ストレス ・寝不足、過労 ・刺激物の多い食生活（カフェイン、辛い物など）
- ・一部の薬剤（痛み止めなど） ・感染症（ピロリ菌など）

## ☆胃薬の種類

薬物治療としては大きく以下の3つ方針があります。

- ① 胃酸の分泌を抑制する（胃酸分泌抑制薬）
- ② 粘膜胃酸を中和する（制酸剤）
- ③ 防御機能を高める（防御因子増強剤）

### ①胃酸分泌抑制薬

胃酸が作られるのを抑える薬です。胃酸分泌抑制薬には以下のようなものがあります。

H2ブロッカー      ガスター®など

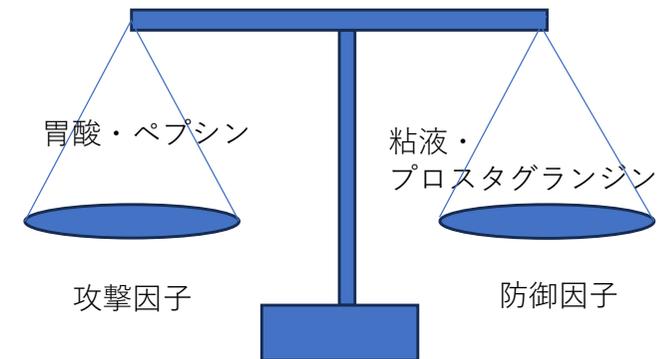
※ 注意：H2ブロッカーの中には腎機能により減量が必要なものもあります。

プロトンポンプ阻害薬（PPI）      タケプロン®      パリエット®      ネキシウム®      など

H2ブロッカーは以前から処方箋無しでの薬局で購入できますが、近年PPIが処方箋無しで購入できるようになりました。

カリウムイオン競合型アシッドブロッカー（P-CAB）

タケキャブ®



## ②制酸薬

強酸性である胃酸を中和し、刺激性を軽減する薬です  
炭酸水素ナトリウム、マグミット®（酸化マグネシウム）など

炭酸水素ナトリウムは血液が酸性にならないように保つ効果があり、酸化マグネシウムは便を軟らかくする便秘薬として使われることもあります。

※注意：カルシウムやマグネシウムといった金属イオンは一部の抗生剤などの吸収を妨げる可能性があります。

## ③防御因子増強薬

粘液の分泌を増加させたり、胃粘膜の血流量を増加させることで胃粘膜を保護したり、傷ついた組織を修復する効果がある薬です。

ムコスタ®（レバミピド）、マーズレン®、アルロイドG®など



## ★消化性潰瘍のリスクのある薬剤

医師の処方通り正しく使用すれば現れにくいですが、お薬の中には胃の痛みの副作用が現れるものもあります。ここでは代表的なものをいくつか紹介します。

NSAIDs（ロキソプロフェン）など

痛み止めや炎症を抑える目的で使われるお薬です。防御因子を低下させることで胃の痛みの副作用があることが知られています。使用する際は、用法用量を守ることや、食事をとってから内服することが重要です。

ステロイド（プレドニゾン、プレドニン®、メドロール®、デカドロン®）など

ステロイドとは、副腎から分泌される、体にとって重要なホルモンを薬にしたものです。

ステロイド薬は過剰な免疫を抑えたり、炎症を抑えたり様々な効果がある反面、副作用が起こる可能性もあります。

ただし、ステロイド薬は非常に重要なお薬ですので、副作用が現れても自己判断で飲むのをやめずに、医療スタッフへご相談ください。